

1 年を振り返って

看護学科第 45 期生 福田 英樹

私が看護師を目指したのは、看護師として働く母の勧めからでした。准看護学校に入学後、勉強する中で、看護をするための科学的根拠となる知識や、その知識を用いて安全に患者さんを支援する技術を学ぶことが楽しく感じました。また、実習時に患者さんから「ありがとう」と声をかけてもらえたことが嬉しく、准看護師の資格を取得後もさらに詳しく看護の知識、技術を深め、患者さんに寄り添い闘病生活の力になれる看護師になりたいと思い看護学科への入学を決意しました。



入学当初は「看護師」という大きな夢に近づいた期待と、クラスに馴染めるだろうか、さらに難しくなる勉強についていけるだろうかなどの不安がありました。しかし、人間関係論の授業にあるキャンプで、クラスメイトと料理やキャンプファイヤーを協力し行い、クラスメイトと打ち解けることができました。また、授業の中で分からないことがあった時は、先生方にわかりやすく指導を受け、勉強もついていくことができました。一年間共に学んできたクラスメイトや、私たち学生をサポートしてくれる先生方、家族など多くの人に支えられ看護学生として成長することができたと思います。

学校では准看護師で学んだことをさらに詳しく学びました。特に臨床看護総論Ⅰでは、患者さんの現在をとらえるためにアセスメントをし、関連図を作り、看護で解決すべき看護上の問題の優先順位を判断する方法などを学び、臨床の場で必要な知識や技術を具体的に考えることができました。

看護学生として学ぶことはとても多く、多忙な日々の中で目の前のことをこなすのに精一杯になることも多々ありましたが、その一つ一つが看護師になるために必要なことだと感じ、どんなことでも丁寧にやり遂げることの大切さを学びました。2年生では、周囲のサポートに感謝しながら1年生で学習したことを無駄にしないよう、さらに学びを深め本格的に始まる実習にむけて、今後も学業に励んでいきたいと思います。